

## 7月例会 「中国視察旅行報告とグループディスカッション」

7月24日 於 食事苑京阪

河原鉄工(株) 河原

「国」としての特徴「人」としての特徴、そして「考え方」としての特徴という3方向からの切り口で話が進んでいったとおもいます。まず「国」としての特徴は、なんと言っても人が多い！これは紛れもない事実！そして、人口は実際は20億位はいるんちゃうか〜？という話・・・だって戸籍上の数値と実際は違うから・・・これは、実は非常な脅威を秘めている。なぜなら、文句を言えば Fire!! 給料が上がればこれまた Fire!! すなわち次々変わりがあるということ・・・したがって、賃金の高騰による従来の NICS NIES の時代の場合とは違う可能性があるということ。また賄賂政治？が平然と行われている社会であるということ。「とりあえず金」これで多くのことは解決できるんちゃうか？とおもってしまう・・・逆にいえば「コネ」「カネ」をもっていないひとは成功する可能性が低くなるのでは？？？「人」としての特徴は、モチベーションの高さ、質の変化、バイタリティーそして貧富、5年前中国に行ったときは「監視役」がいるときだけ仕事をし、その他のときはタバコ プッカ〜 だったのが、今ではシ〜〜〜ンとみんな仕事をしている。これは「稼ぐ」という面白さ、というか資本主義的な考えが開花してきているのではないか？？という気がしますまた、貧富のさも依然あるようで、右を見れば高層ビル左を見ればバラックこんな2重構造の社会が今の中国です。そのバラックにすむ少年はこう思うでしょう。「ぜったいあつこへ、いったる！！」ここからスタートするパワーは凄いものだと思います。この構造がある以上このモチベーションは変わることはないかもしれません。「考え方」としての特徴は、主義の違いから派生するもの・・・特に日本人の気質にありがちな一人右向きやみなつらなうみたいまなもんでなぜか人と違うことを恐れてしまいがちですが、「しるか？いのちまでとらんわ」的にやっているとよいのかもしれない。今日本は脅威に感じている中国ですが、地続きの韓国は”黒字”です。民族性の違いから派生するのでしょうか？？これらのことから、学ぶべきことは学び、捨てるところは捨てる いたってあたりまえの話ですが、民族的になかなか難しいものがあります。

株式会社製作所 辻

国の成長・勢いに圧倒された感があり、それだけでも十分な危機感を受けられて帰ってこられたそうです。見学先のなかでは、日本にあるものと全く同じ設備でローエンドな労働力を駆使されており、それ以上に生産管理や温度管理までの日本と同じ以上の管理のしきみを持っている中国の現況(全ての工場ではありませんが)を見、何も変わっていない自社の焦燥と一体何をしたらよいのか？？？わからない現状がまずあるというのが話しのはじまりだったように思います。銀行さんへ、担保主義から企業の将来像・ビジョンを擦り合わせたベンチャー有利な投資を考えられては・・・をかわきりに製造業への融資のスペシャリスト化を提案されたり、話しもアメリカに飛び、ベンチャーの育つ風土についてまで話し合われました。そんな、こんなで、あつというまに時間も経ってしまいましたが、私たちの将来には、中国の脅威の部分を知り、何を為すべきかを考えることが絶対不可欠なことだと、皆さんの御話しのなかからも感じました。この「何か」を見出すことが、とても大事であり、今回の例会ではその糸口でも掴めたのではないかと思いますし、もっともっと突っ込んだ御話しも聞いていきたいなあと考えております。まあ、彼ら(中国)の勢いの部分だけは、真似をしていっても良さそうですね。

